オオサカン楽員の
楽器の小部屋～オオサカンサウンドの源～

楽員と楽器の関係を探る連載企画、第14弾は＼＼フルート奏者 松岡 千聖！／／
楽器へのこだわりや大事にしていることを伺います。



現在使っている楽器のメーカー名・モデル名は？

メーカー名：Powell（パウエル）
モデル名：管体＆トーンホール／14kゴールド、シルバーメカニズム



現在使っている楽器を選んだ理由や気に入っているところは？

入団当初は総銀のフルートを使用していましたが、吹奏楽の音圧の中でもフルートの音色が聴こえてくる吹き方が叶えられる楽器として、5年前からPowellの14kゴールド、シルバーメカニズムを使用しています。管体とトーンホールが14kゴールド、キイなどのメカニズム部分がシルバーという組み合わせです。

この楽器の特色として、存在感と華のあるゴールドの音色をベースにしながら、バンド全体やセクションでまとまって動く際に大切な馴染みの良さ・細やかな機動力を実現するため、メカニズム部分にシルバー素材のものを使用してバランスを取っています。

私が感じるこの楽器の魅力は、自分が表現したい音が出せることです。彩度の高い明るい音色から霞みのかかった暗い音色まで幅広い音色が実現でき、また音質もパワフルな音から細く軽い音まで出すことができます。



パーツに関して教えてください。



Powellのフルートの頭部管にはいくつかのモデルがあり、私は❶フィルハーモニーというモデルを使用しています。どの音域でも音の伸びに安定感があり、ムラのない響きを持っているモデルです。

フルートのキイは、❷リングキイ（フレンチスタイル）と、❸カバードキイ（ジャーマンスタイル）の2種類があり、トーンホールは❹ドローン（管体引き上げ）、❺ソルダード（ハンダ付け）の2種類があります。私の楽器はリングキイに、ソルダードタイプのトーンホールです。管体とは別にトーンホールを付け加えるため、管が重くなる分吹いた時の抵抗感が増すのでより深い音色に、そして発音をくっきり粒立ちよくサポートしてくれる作りになっています。

キイの種類



トーンホールの種類



楽器ケースについて教えてください。

ケースは❶Powellの純正ケースです。楽器の調整がすぐ狂ってしまわないように、コルクや厚紙を挟んでわずかな隙間をなくし、楽器を常に固定しています。

持ち運ぶ際は❷Roi（ロイ）のケースカバーに入れて、❸nunc（ヌンク）というメーカーのリュックに入れて移動しています。nuncは楽器用リュックのメーカーではないですが、中にあるノートパソコン用のベルトでフルートケースを固定できるので安心です。また、ピッコロとフルート、さらに譜面なども入るので使い勝手が良く、かれこれ10年近く使用しています！



楽器を固定するための
コルクや厚紙







練習の際、常に持ち歩いているものは？

❶メトロノームチューナー、❷鉛筆と❸消しゴム、お手入れセット（❹掃除棒、❺クロス、❻Pearl（パール）クリーニングペーパー）といった基本的なセットと、自分の演奏を客観的に把握するために録音をよくするので❼スマートフォン、気になったことや他の奏者・パートと照らし合わせたいことをメモする❽付箋は常に持ち歩いています。





楽器を演奏する時に大事にしていることは？

自分の演奏を客観的に把握することです。

これまでに二度オオサカンへゲストとしてお越しくださったシンシナティ響首席テューバ奏者 クリストファー・オルカ氏がかつてマスタークラスで仰っていた、「どう吹いたものがどう聴こえているのかを理解することが大切」というお話がとても印象に残っており、自分自身の主観や感覚だけに頼らず、録音や他の方からのアドバイスも踏まえてどう演奏を構築していくか常に考えることを大切にしています。

あなたにとって「フルート」とは？

自分自身を高め成長させてくれる“相棒”でありながら、より良い演奏のために何をすべきか、常に考えさせてくれる“道標”のような存在です。これまでフルートや音楽を通して出会った方々の素晴らしい人間性や音楽性に触れ、自分自身ももっと人としても奏者としても成長したい、と頑張ることができています。

目指すべき演奏のためにこれからもひたむきに努力し、聴いてくださる方の心を震わせる音楽の一部となれるよう、フルートと向き合い、共に進化していきたいです！